

日本遺産構成資産の追加認定について

平成30年5月24日に行田市の日本遺産ストーリー「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」の構成資産に、下記の6件の文化財が追加認定された（内1件は資産建物の追加）。これで日本遺産の構成資産は44件（史跡4、古文書4、建造物29、有形民俗文化財2、無形民俗文化財5）となった。

- ・ おおさわけじゆうたく きゅうぶんこくら じゆうたく どぞう
大澤家住宅（旧文庫蔵）・住宅・土蔵（所在地：行田市行田9－5）

これまで旧文庫蔵のみが構成資産であったが、新たに昭和3年(1928)竣工の店舗併用住宅、明治末頃建設と伝えられる土蔵造りの足袋蔵が追加認定された。

- ・ けいちよう ねんむさしのくにさかまきむらねんぐわりつけじよう
慶長17年武蔵国酒巻村年貢割付状（郷土博物館蔵）

慶長17年(1612)の酒巻村の年貢割付状。畑の年貢として木綿が書き上げられ、江戸時代初期にすでに行田市域で木綿が栽培されていたことがわかる。



- ・ おくぬきけどぞう
奥貫家土蔵（所在地：行田市天満3－35）

大正時代の建設と伝えられる元奥貫忠吉商店の土蔵造りの足袋蔵。同商店は市内数か所に足袋蔵を建設しており、この蔵もそのひとつである。



- ・ かさばらけじゆうたく
笠原家住宅（所在地：行田市行田18－19）

昭和6年(1931)建設と伝えられる元足袋原料商店の店舗併用住宅。その後足袋卸売商の店舗併用住宅、旅館、バーと用途が変わり、現在は住宅となっている。昭和戦前期の姿を良く留めている。



- ・ がくやたびぐら
楽屋足袋蔵（所在地：行田市宮本5－18）

昭和20年代後半の建設と伝えられる楽屋足袋の石造の足袋蔵。戦後の行田を代表する足袋蔵のひとつである。



- ・ ぎょうだおんど
行田音頭

行田の足袋産業が不景気にあえいだ昭和9年(1934)に、当時の忍町長の発案で不景気を吹き飛ばそうと西條八十、中山晋平に依頼して制作した音頭。「足袋の行田を思い出す」等、歌詞にも足袋のことが歌われている。

平成30年度「日本遺産 (Japan Heritage)」認定一覧

番号	道県名	申請者 (◎印は代表自治体)	ストーリーのタイトル
1	北海道	◎上川町、旭川市、富良野市、愛別町、上士幌町、上富良野町、鹿追町、士幌町、新得町、当麻町、東川町、比布町	カムイと共に生きる上川アイヌ～大雪山のふとくに伝承される神々の世界～
2	山形県	◎山形県(山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町)	山寺が支えた紅花文化
3	栃木県	宇都宮市	地下迷宮の秘密を探る旅 ～大谷石文化が息づくまち宇都宮～
4	栃木県	◎那須塩原市、矢板市、大田原市、那須町	明治貴族が描いた未来 ～那須野が原開拓浪漫譚～
5	富山県	南砺市	宮大工の鑿一丁から生まれた木彫刻美術館・井波
6	山梨県	◎山梨県(山梨市、笛吹市、甲州市)	葡萄畑が織りなす風景—山梨県峡東地域—
7	長野県、山梨県	◎長野県(茅野市、富士見町、原村、諏訪市、岡谷市、下諏訪町、長和町、川上村)、山梨県(甲府市、北社市、韮崎市、南アルプス市、笛吹市、甲州市)	星降る中部高地の縄文世界—数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅—
8	静岡県、神奈川県	静岡県(◎三島市、函南町)、神奈川県(小田原市、箱根町)	旅人たちの足跡残る悠久の石畳道—箱根八里で辿る還かな江戸の旅路
9	和歌山県	広川町	「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～
10	岡山県	◎岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市	「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～
11	広島県	福山市	瀬戸の夕風が包む 国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む瀬戸の浦～
12	大分県	◎豊後高田市、国東市	鬼が仏になった里「くにさき」
13	宮崎県	◎西都市、宮崎市、新富町	古代人のモニュメント—台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観—